

九条の樹 54

2015年3月



東久留米「九条の会」ニュース

発行：東久留米「九条の会」

代表者 古田足日・連絡先 鈴木Tel.042-473-9489

<http://members3.jcom.home.ne.jp/higashikurume9/>

メール：higashikurume9@jcom.home.ne.jp

日本国憲法 第9条

- ①日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。
- ②前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。

「あたらしい憲法のはなし」のことなど

大泉はじめ（小山・幸町9条の会）

先ごろ朝日の投書欄で、八十歳の私と同世代の方が安倍首相に「あたらしい憲法のはなし」再読を」と訴えていた。私（たち）は新制中学一年生の時この教科書を読んだのだ。民主主義・国際平和主義・基本的人権などの意味が説かれてたが、特に脳裏に焼きついたのは戦争放棄の章であった。武器類が戦争放棄の大釜に叩き込まれ、平和に役立つ物品が吐き出される挿絵とともに「日本は正しいことを、ほかの国よりさきに行つたのです。世の中に、正しいことぐらい強いものはありません。」と文部省は説いていたのである。当時の少年（たち）の心にどんなに深く共鳴したか。私は戦時中、憲法という言葉が聞いたことがなかった。暗唱した

「朕思ふに・・・」で始まる教育勅語こそ国のいちばん大事な決まりだと思つていたのでから、「あたらしい憲法のはなし」は思想（？）の一大転換を迫るものであった。

私（たち）は国民学校5年生の夏、敗戦を知らされた。神の国日本は不敗であると洗脳され、七つ釘の少年航空兵に憧れていたのに何なんだ。これからどうなるんだろう、と不安と飢えの日々を経て、それでいて明るい解放感の戦後の空気を体感しながら墨塗りの教科書と手作りの用具で野球をしたりしながら、1945年に発足した男女共学の新制中学一期生になって、「あたらしい憲法のはなし」のあの小冊子を手にしたのだ。後年（2004年）に「九条の会」を呼びかけた大江健三郎氏が、同世代人がわが児の名前に「憲」の一字をつけた人が多いと指摘していたのでもうかがい知れるように私（たち）は新憲法を心から迎え入れたのだ。今年、

戦前の日本を取り戻したがる反動の波がひたひたと押し寄せている。昨今ではあるが、9条と25条は言わずもがな、現憲法を何としても守りたいのが国民の大多数であることを信じたい。「国民の不断の努力」を要することは承知のうえだが。

先日NHKが、戦中戦後の映像をカラー化して放映した。その中で昭和天皇が議事堂の最上段で大きな奉書を広げ、「平和な文化国家をめざし、この憲法を正しく守つていく事を願ふ」と読み上げたシーンを観た。新憲法を公布したのだ。当時、あの宣言文に異を唱える国会議員は一人もいなかったのではない。

時移り、今や安倍政権は集団的自衛権行使容認を言い放ち、海外でも戦争する法整備を急いでいる。私（たち）は「九条の会」の網の目を張り巡らして、9条を守りぬかねば後世に申し訳が立たない。安倍首相のように「あたらしい憲法のはなし」への初心を忘れる、わけにはいかないのである。

◆東久留米「九条の会」学習会◆

日本軍「慰安婦」と九条(下)

11月9日中央図書館で、西部

九条の会の塚田勲さんをお招きして学習会が開催され、50名の参加者で、「慰安婦」についてお話を伺いました。講演の要旨の続きを掲載します。

朝日の誤報問題からバッシングが起こったのがきっかけで「慰安婦」問題が再び注目されてきた事。慰安婦は日本の侵略戦争とともに始まって終結とともに消えた事。上海事変後すぐに最初の慰安所が作られ、日本軍の侵略先ではどこにも設置されました。(前号まで)



設置のねらいと実際

性奴隷ということですが、慰安婦には居住、外出、廃業、拒否ができないと定められています。慰安所の生活はあらゆる自由がない奴隷状態だということとです。

慰安所設置のねらいと実際ということですが、日本軍兵士はずっと交代なしで戦いました。娯楽もない、だから慰安所だということとです。米英は数ヶ月で交代していた。それから性病が蔓延しないようにと言っています。実際は性病は減らずに若干増えています。それから「強姦防止」だと言っています。これは中国派遣軍のトップが、戦争が始まってすぐ命令を出しています。日本軍があちこちで強姦ばかりするから、もの

すごく反日意識が高まってしようがないので慰安所を早く作れ

と。ところが強姦防止にはならなかったんです。さらにスパイ防止を目的に入れたのは日本兵にしかこの慰安所を使用させないようにし、兵士が街に出てしゃべらせないようにしたからです。

こんなことが可能だったのはなぜか。日本政府も国民も、日本はアジアの一等国で、最も優秀な民族である。逆にアジアの人たちは一段と低い、という蔑視思想がとっぷり入っていて、

アジアの人たちをこういう目に合わせることを全く疑問に思わなかったのです。そして、中国との戦争をやってみたら中国人が激しく戦った。これに日本が勝つためには長く駐屯して力で押さえつける。それを維持していくために、朝鮮人や中国人を慰安所に、となつたんです。

日本はさらに東南アジアに戦線を拡大し、占領地を拡げていきますが占領地の住民も武力を使って慰安所に入れていきまし

た。

立ち上がる元「慰安婦」

日本軍が全滅した時、ほとんどの慰安婦は一緒に死んでしまいました。また敗戦とともに中国大陸や東南アジアの慰安婦は見捨てられました。日本人の慰安婦と一緒に引き揚げたといわれていますが、帰った後も汚い女とみられ、韓国でも同じで大変悲惨な状態で過ごしたんですね。

慰安婦問題が大きな展開を見せるようになったのは、キムハクスンさんという方が1991年8月に記者会見で、その少し前に日本の政府が国会で「あれは民間業者が連れ歩いただけだ」と答弁したことが韓国に伝わったときに、キムさんが勇気を出して発言したんです。そのあと、韓国、北朝鮮、フィリピン、インドネシア、中国、台湾、在日朝鮮人、東チモール、これだけのところに住んでいた元慰安婦たちが次々と名乗り出ると

いう形になつていきました。

これに対する日本政府の対応がダメだったものですから始まったのが水曜デモ、いまでも毎週水曜、ソウルの日本大使館前で集会、デモが行われていきます。

キムさんの証言以来、学者、市民の手で慰安婦研究が急速に進みました。慰安婦問題が世界中に広がって、日本政府も動かざるを得なくなつて「河野談話」になつたんですね。

もう一度見ていただくと、日本政府の道義的責任があることを読み取ることが出来ますが法的責任を認めていません。この事実をちゃんと認めて、国家として謝罪するとは書いていません。国と軍が直接握つていたこととは書いていません。関与とは書いています。キムさんの発言の衝撃は世界史の大きなうねりの中で起こつたんです。

1986年、独裁者マルコスが打倒されてフィリピンが民主化されました。翌年韓国と台湾

で市民・労働者一斉に立ち上がり、民主化が一気に進みました。東アジアが大きく変わったときです。天安門事件のように押さえられたものもありますが。このころ、慰安婦問題だけでない、東アジアの人たちがいつせいに日本の戦争責任を問う裁判が80とか90とかいう数で起こされました。それが90年代から2000年代にかけてです。その中の慰安婦の問題は世界の女性解放運動の中で画期的な意味を持つたと思います。

1990年代のころアフリカの性暴力、バルカン半島の内戦の時の性暴力をどうやって解決していくのかという時に、日本の慰安婦の問題の解決がなければ、すべてが解決できないと、国連でも世界の良識ある人々が動き出し、慰安婦問題は世界の解放運動にきちつと位置づけられた、それを作り上げていったのがキムハクスンさんたち、元慰安婦たちの運動だったことを言いたいわけです。(終)

◆憲法を守ろう・東久留米共同行動

1月12日成人の日、生涯学習センター前で、新成人の方たちに自由法曹団女性部の作成したリーフレット「日本国憲法に聞いてみよう」を午前、午後に分けて500枚配布しました。九条の会からも参加しました。



◆東久留米「九条の会」10周年のつどい

6月27日(土) 午後
生涯学習センターホール
講師・小森陽一さんに決定
拡大世話人会で、詳細を検討していきます。各会からの世話人会参加をお願いします。

学習会

●今日の中東問題と憲法

3月28日(土) 午後7時〜9時
中央図書館視聴覚ホール
講師・塚田勲さん
参加費・200円
主催・東久留米「九条の会」

●中学校教科書の検定基準 全面改悪と採択について

4月4日(土)
12時50分〜15時40分
生涯学習センター学習室4
講師・塚田勲さん
主催・東久留米の教科書を考える会

講演会

●キリスト者九条の会講演会

4月29日 午後1時30分〜
成美教育文化会館大研修室
講師・稲正樹 先生
「憲法の何が大切か」《9、20、21、25条を中心に》(仮題)
お問い合わせは042・473・4496岸まで。

繰り返してはならない

伊東芳子（南町）

第二次世界大戦末期、私は八王子に住んでいて、七歳だった。

空襲警報は毎晩のように鳴り響き、そのたびに電灯を黒い布で覆った。すぐにかぶれるようにと、防空頭巾を手元に置いて耳をすました。B29の音を確認かめ、行き過ぎるのを待った。この音の怖さは、今でも耳に残っている。

当時、「ほしがりません勝つまでは」のスローガンのもとに、町工場だったわが家にまで鉄製品や機械類の供出のお達しがきて、みんな持って行かれた。

一九四五年七月に入ると、米軍は何回にも亘って空襲予告のビラをまき、下旬には、攻撃目標の都市名も明記するようにな

った。市当局もそれに反応して婦女子に避難を呼びかけた。

そして、予告から一日過ぎた八月一日の夕方、市役所前に、ポンプやホースを乗せた大八車のようなものがずらっと並んで、子ども心にも異様な雰囲気だと緊張した。

当時、わが家は市役所前にあつたので、一番に狙われるだろうと思つて万町に逃げた。そこには畑を持つていて、作りかけの防空壕もあった。

B29は、まず照明弾を投下し、真昼のように明るいそこを目がけて焼夷弾を雨あられと落とすとした。家の者は何とか無事に防空壕に着いたが、街は一晩中燃え続け、まっ赤だった。

これが、八王子大空襲である。（後で知つたが、八王子で一番に空襲されたのは万町で、我々は命拾ひしたのだつた。）

翌朝、防空壕から、燃え落ちそうな電柱をくぐつて市街地に戻つてきた。家々は焼け崩れ、もちろんなわが家も焼け落ちて、

街のどこどころに蔵だけが形を留めてくすぶつていた。「今、蔵の扉を開けたら危ない。炎が噴き出すぞ」と叫ぶ声が聞こえ、あたりでは人々が折り重なつて倒れていた。今にも起き上がりそうな気がしたが、「見るな」という父の声に、ただもう見ないようにして、逃げるしかなかつた。

空爆を逃れた親戚の家によつたとどろつき、そこで、避難してきた二〇人を超える人々との共同生活が始まつた。

毎日、食べ物を探しまわつた。すいとんの具が日に日に少なくなつた。そんな中、ひもじくて食べたのだらう、一緒に暮らしている乳飲み児の便から、蟬（セミ）が未消化のまま出てきたことがあつて、びっくりした。

まもなく戦争は終わったが、戦時中よりもっと過酷な食糧難と住宅難の時代が待つていた。

（聞き書き…高田桂子）

《平和を考える本》

『希望の牧場』

森絵都・作／吉田尚令・絵



（岩崎書店）

二〇一一年三月一日、東日本大震災が発生。福島第一原発を津波が襲い、放射能汚染のため、半径二〇キロ圏内は立入り禁止区域に指定された。そこに取り残された牧場の話である。

肉牛として飼育された牛が汚染されると、もう人間の役に立たない。殺処分を迫られたが承服できない一人の牧場主が牧場に留まつて、三〇頭の牛の世話を続けた。近隣から頼まれたり、まいご牛を引き取つたりで、牛は三六〇頭に増えた。毎日、エサ不足と闘いながらも、牧場主はエサをやり続ける。なぜか。それは自分が牛飼いだからだ。

今や、「希望の牧場」と呼ばれるこの牧場に、協力の輪が広がりにつつある。（高田）